

島唄 (元歌本意版)

□□□□□□

【作詞・作曲】宮沢和史

1.
ディゴの花が咲き 風を呼び嵐が来た
ディゴが咲き乱れ 風を呼び嵐が来た
くり返す悲しみは 島渡る波のよう
ウージの森で あなたと出会い
ウージの下で 千代にさよなら

※島唄よ風に乗れ
鳥とともに 海を渡れ
島唄よ風に乗れ
届けておくれ わたしの涙

2.
ディゴの花も散り さざ波が揺れるだけ
ささやかな幸せは うたかたの波の花
ウージの森で うたった友よ
ウージの下で 八千代の別れ

※ (くりかえし)

(間奏)

海よ 宇宙よ 神よ いのちよ
このまま永遠 (とわ) に 夕風を

※ (くりかえし)

届けておくれ わたしの涙
鳥とともに 海を渡れ
島唄よ風に乗れ
届けておくれ 私の愛を
ラララ...

島唄 (元歌本意版)



【作詞・作曲】宮沢和史

1.

ディゴの花が咲き 風を呼び嵐が来た (間奏)

(1945年 春が訪れ沖縄本島に米軍が上陸した)

ディゴが咲き乱れ 風を呼び嵐が来た

(4月から6月 米軍の侵攻が続いた)

くり返す悲しみは 島渡る波のよう

(米軍の凄惨な殺戮は寄せては引く波のように繰り返された)

ウージの森で あなたと出会い

(さとうきび畑で 出会ったあなた)

ウージの下で 千代にさよなら

(防空壕の中で永遠のお別れをした)

島唄 (元歌本意版)



【作詞・作曲】宮沢和史

島唄よ風に乗り

(島唄よ海の向こうの本土まで届けておくれ)

鳥とともに 海を渡れ

(亡くなった人々の魂を、沖縄の悲しみを)

島唄よ風に乗り

(島唄よ海の向こうのニライカナイまで)

届けておくれ わたしの涙

(届けておくれ、亡くなった人々の魂を 私の思いを)

2.

ディゴの花も散り さざ波が揺れるだけ

(今はあの悪夢が嘘のように静かだ)

ささやかな幸せは うたかたの波の花

(幸せの日々の生活は はかなく消え去った)

ウージの森で うたった友よ

(一緒に歌い遊んだ あのガマで自決する前に)

ウージの下で 八千代の別れ

(泣きながらふるさとを歌った)

ガマ = 鍾乳洞 防空壕に使用した

島唄 (元歌本意版)



【作詞・作曲】宮沢和史

島唄よ風に乗り

(島唄よかぜにのって)

鳥とともに 海を渡れ

(魂と共に、海を越えて)

島唄よ風に乗り

(あの人のいるニライカナイへ)

届けておくれ わたしの愛を

(とどけておくれ わたしの愛を)

ニライカナイ

遥か遠い東(辰巳の方角)の海の彼方、または海の底、地の底にあるとされる異界。

豊穡や生命の源であり、神界でもある。年初にはニライカナイから神がやってきて豊穡をもたらし、年末にまた帰るとされる。また、生者の魂もニライカナイより来て、死者の魂はニライカナイに去ると考えられている。琉球では死後7代して死者の魂は親族の守護神になるという考えが信仰されており、後生(ぐそー:あの世)であるニライカナイは、祖霊が守護神へと生まれ変わる場所、つまり祖霊神が生まれる場所でもあった。

島唄 (元歌本意版)



【作詞・作曲】宮沢和史

(間奏)

海よ 宇宙よ 神よ いのちよ

このまま永遠 (とわ) に 夕凧を

(今あなたを想い 永遠の平和を祈る)

島唄よ風に乗る

(島唄よかぜにのって)

鳥とともに 海を渡れ

(魂と共に、海を越えて)

島唄よ風に乗る

(あの人のいるニライカナイへ)

届けておくれ わたしの涙

(とどけておくれ わたしの思いを)

島唄 (元歌本意版)



【作詞・作曲】宮沢和史

島唄よ風に乗り

(島唄よかぜにのって)

鳥とともに 海を渡れ

(魂と共に、海を越えて)

島唄よ風に乗り

(あの人のいるニライカナイへ)

届けておくれ 私の愛を

(とどけておくれ わたしの愛を)

ラララ…